

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00240)

事務事業名称	青少年育成	款	04	項	02	目	01	事業	005	整理番号	230
現担当課名	児童青少年課	係名	青少年係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	232	
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実					予算事業区分	既定事業				
事業開始	昭和29年度										
令和 4年度担当課名	児童青少年課					事業評価区分	一般				

令和 4年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年と、その健全育成を目的に活動する地域団体	根拠法令等	(1) 杉並区青少年育成委員会補助金交付要綱 (2) 杉並区青少年善行表彰要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	区内17団体ある青少年育成委員会などの地域の青少年健全育成の活動を助成し、これらの団体が行う事業活動を通して子どもたちの健全育成を推進する。善い行いをした青少年及び団体を表彰し、善行の気運醸成を図る。	活動指標	青少年育成委員会の総事業数
事業内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	青少年健全育成団体に対して、補助金または事業共催分担金を支出する。青少年によるボランティア活動や地域協力などの善行に対し、表彰を行う。青少年の健全育成に資する行事の開催または開催を支援する。	指標名 (1)	共催事業も含まれます。
		指標名 (2)	共催事業の実施回数
		指標説明	すぎなみ舞祭とスカウト連絡会との共催事業の数
		成果指標	青少年育成事業への参加者数
		指標名 (1)	青少年育成委員会の事業と、区共催事業への参加者数の合計【行政】
		指標名 (2)	青少年善行表彰の表彰者数
		指標説明	善行表彰を受けた個人と団体の構成人数の合計【行政】

指標、総事業費 (Plan・Do)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度	令和 4年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 件	32	400	65	400	109	400	27.3	82.7
活動指標 (2)	2 回	1	12	8	12	10	12	83.3	
成果指標 (1)	3 人	7,139	101,650	25,530	101,650	50,830	101,650	50.0	
成果指標 (2)	4 人	221	1,000	273	1,000	463	1,000	46.3	
事業費	5 千円	6,482	20,081	8,419	19,863	16,422	19,882	特記事項	
人件費	常勤職員分 (再任用含)	6 千円	22,873	17,006	25,613	20,023	31,109	21,627	昨年度は共催事業である「すぎなみ舞祭」や青少年育成委員会の実施事業が新型コロナウイルス感染症の影響で中止や規模縮小となっていました。今年度はその影響も少なく、各事業が再開されたことにより事業費が大きく増加しています。 より解りやすい指標となるよう、活動指標と成果指標をそれぞれ見直しました。
	上記以外の職員	7 千円	6,893	5,442	5,145	5,513	6,620	5,517	
総事業費 (5+6+7)	8 千円	36,248	42,529	39,177	45,399	54,151	47,026		
財源	受益者負担分	9 千円	0	0	0	0	0	0	
	国・都からの補助金	10 千円	0	0	0	0	0	0	
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0	
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	0	0	0	0	0	0	
差引：一般財源 (8-12)	13 千円	36,248	42,529	39,177	45,399	54,151	47,026		

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 230

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	青少年育成委員会補助金	17	件	13,864
	すぎなみ舞祭への分担金	1	回	1,400
	スカウト連絡会との共催事業分担金	9	回	474
	青少年善行表彰の実施	1	回	426
	その他 (青少年育成委員会に係る備品、消耗品等)			258
取組成果	<p>区の補助金を原資に活動している青少年育成委員会が地域の子どもたちを対象に実施した事業は109事業あり、49,378名の参加がありました。地域における青少年健全育成の中心的役割を担う育成委員会への補助金は今後も必要不可欠です。また、すぎなみ舞祭などの共催事業も約1,500名の参加があり、多くの子どもたちに貴重な体験と経験の機会を提供することができました。</p> <p>区内で実施された事業数とその参加者の増加に比例して善行表彰の件数も大きく増加しました。これは、事業運営にボランティア参加する等の子どもたちをご推薦いただいていることに因ります。</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析 (1 / 2)	<p>青少年育成委員会は、区内全域を17地域に分け、地域住民を中心に組織されたボランティアで活動する任意団体ですが、これまでも長年に渡り青少年の健全育成に資する取組を続けてきました。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルスの影響により総事業数や参加者数ともに目標値を下回りましたが昨年度実績と比較すると大幅に増加するなど、実施事業には多くの参加があり、地域の子どもの健全育成に寄与しています。しかし、委員の高齢化や固定化などの課題もあり、今後も育成委員会の活動が継続されるよう、必要な支援を行っていく必要があります。</p> <p>また、育成委員会の事業と同様に、すぎなみ舞祭などの共催事業にも多くの参加があり、子どもたちの健全な育成に寄与するものとして、適正な支援を行っていきます。</p>
課題・分析 (2 / 2)	<p>青少年善行表彰についても表彰件数が昨年度より増加しました。これは、地域の子どもたちを対象とした事業が再開されたことで、青少年の行動機会が多く提供されたことが影響しています。</p> <p>地域の子どもたちを対象とした事業の実施は、直接参加することで健全な成長を促すだけでなく、善意の行為の機運を高める点でも大きな成果があります。</p> <p>地域における青少年の健全育成を進めるためには、青少年育成を目的に活動している団体や事業に対する支援が今後も必要です。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況 (年度末までの見込含む)	<p>新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行されたことから、青少年を取り巻く様々な事業等もコロナ禍前の状態に戻りつつあり、予算面では総額に近い執行を予定しています。</p> <p>青少年育成委員会補助金については、全17団体からの申請を受け、交付決定額の合計は16,280千円となっており、これは予算額の約96%に当たります。補助金を原資に17団体合計で約120件の青少年の健全育成を目的とした事業を計画しています。同様に、分担金を支出する事業としては10月に開催する「すぎなみ舞祭」とスカウト連絡会との共催事業である「わくわくフィールドSUGINAMI」を区内各地域で年間を通じて10回の開催を予定しています。こうした事業の実施数増に伴い、青少年の活動機会も増え、青少年善行表彰の表彰件数も増加することが見込まれます。</p>
事業の方向性・改善策	<p>地域における青少年の健全育成を進めるためには、青少年育成委員会をはじめとした青少年育成を目的に活動している団体や事業に対する運営支援と活動支援が今後も必要不可欠です。</p> <p>関係団体に対しては、既存の在り方に捉われずることなく、現代の青少年が求める、時代に即した、内容・規模での事業実施を求めながら、次代を担う青少年のために真に必要な支援が行えるように努めていきます。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	<p>令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行されたことから、各種の地域イベント等はコロナ禍前の規模・回数まで回復する可能性があり、一次的に減額となっていた青少年の健全育成を目的とした事業費や、関係団体に対する助成額も徐々に増額の傾向にあります。</p> <p>関係団体のほとんどが自己資金を持たないボランティア団体であり、今後も助成対象事業や共催事業においては、必要な支援を継続する必要があります。</p> <p>また、こうした地域のイベント等が増えることで、青少年がボランティアとして活躍する機会も増えることとなり、善行表彰の件数も増加することとなります。表彰は善行の機運醸成に効果があり、青少年の健全育成に繋がります。一人でも多くの青少年を表彰できるように善行を推薦いただくためには、区民の表彰制度に対する趣旨理解を深める必要があり、関係団体及び地域等への周知や広報に係る経費は今後も必要です。</p>	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00241)

事務事業名称	青少年の自立応援・社会参加事業			款	04	項	02	目	01	事業	006	整理番号	231	
現担当課名	児童青少年課	係名	青少年係	連絡先電話番号	4402			昨年度整理番号	233					
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業					
事業開始	昭和25年度													
令和 4年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般					

令和 4年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年	根拠法令等	(1) (2)	二十歳のつどい実施要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	青少年が、社会を構成する主体として自覚を持った成人に成長するよう支援する。	活動指標	指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	「二十歳のつどい」式典実施回数
事業内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	○成人の日に二十歳のつどいを開催する。	指標説明	成果指標	「二十歳のつどい」参加者数
		指標説明	指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	式典当日の参加者数【行政】

指標、総事業費 (Plan・Do)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度	令和 4年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1 回	4	3	3	3	3	3	100.0	78.9	
活動指標 (2)	2									
成果指標 (1)	3 人	1,814	2,200	2,223	2,200	2,089	2,200	95.0		
成果指標 (2)	4 %									
事業費	5 千円	13,641	16,440	15,304	16,405	12,943	15,162	特記事項		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	6 千円	11,224	13,605	13,766	13,349	8,318	9,982	活動指標 (2) 及び、成果指標 (1) (2) で使用していた「高2アンケート」は令和3年度で終了したため、活動指標と成果指標を改めて設定しました。 予算執行率が80%を下回っていますが、これは「二十歳のつどい」運営業務委託の内容を精査したことで、当初の見積額と契約額に差が生じて執行残となったためです。同様に、事業費が大きく減額となっているのも運営業務委託の額が減額となったため、新型コロナウイルスの影響で「二十歳のつどい」の会場への参加を見送る人のために放送していた式典の生中継を廃止したことなどによります。	
	上記以外の職員	7 千円	2,902	1,814	1,838	1,838	1,839	1,839		
総事業費 (5+6+7)	8 千円	27,767	31,859	30,908	31,592	23,100	26,983			
財源	受益者負担分	9 千円	0	0	0	0	0	0		
	国・都からの補助金	10 千円	0	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	0	0	0	0	0	0		
	差引：一般財源 (8-12)	13 千円	27,767	31,859	30,908	31,592	23,100	26,983		

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 231

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	「二十歳のつどい」実施運営業務委託	1	件	7,920
	「二十歳のつどい」出演者に関する美術芸能委託	1	件	2,508
	「二十歳のつどい」警備・誘導業務委託	1	回	970
	「二十歳のつどい」会場賃借料	1	件	1,273
	その他 (二十歳のつどい実施に伴う消耗品の購入、郵送料等)			272
取組成果	<p>「二十歳のつどい」は、紙の入場券を廃止して事前の参加申込制を導入したことで、入場時の混雑緩和や参加者の利便性向上など、より参加しやすい環境を整えてきました。こうした改善を続けることで、コロナ禍であっても多くの参加者に次代を担う青年への期待と励ましの言葉を伝えることができています。引き続き、青年にとっての自覚と自立のきっかけとなる式典の開催に努めていきます。</p> <p>なお、令和3年度まで実施していた高校2年生を対象としたアンケートは、より幅広い年代を対象とするため、他の実態調査に統合することとなりました。</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析 (1 / 2)	<p>民法改正により令和4年4月より成年年齢が20歳から18歳に引き下げられましたが、杉並区と同様に全国の自治体のほとんどが、いわゆる成人式を20歳を対象として実施しています。</p> <p>区におけるこの式典の過去10年間の対象者に対する参加者の割合は、40%~50%で推移していますが、令和4年度の「二十歳のつどい」も約43%にあたる2,089人の参加があり、民法改正による影響はなかったと言えます。</p> <p>参加者からも20歳を対象とする式典の開催に異論は聞こえず、人生の節目として式典に参加することで、大人としての自覚や自分を支えてくれた人への感謝のきっかけとなったなど、これまでと変わらぬ評価を得ており、今後も式典の開催は青少年の自立応援に寄与するものと考えます。</p>
課題・分析 (2 / 2)	<p>国では、こども基本法の制定や、こども家庭庁の設置など、子どもに関する取組を社会の真ん中に据えて、子どもの健やかな成長を社会全体で後押しする「こどもまんなか社会」の実現に向けた動きを加速化しており、青少年の自立支援や社会参加を促す取組は、今後より重要になっていきます。</p> <p>区においては、これまでも時代の変化等に応じて事業を見直してきたところですが、こうした国の動きも踏まえながら、今後の青少年の自立支援等のための取組を検討していく必要があります。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況 (年度末までの見込含む)	<p>区内在住又は在住歴のある20歳を対象とした「二十歳のつどい」を成人の日に開催するため、11月末に対象者全員に案内通知を発送します。当日は式典を3回に分けて開催し、参加者は対象者全体の約45%、2,300人程度を見込むほか、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度以降見送っていた「新成人の誓い」について、新たに「二十歳のことば」と位置付け、実施することを予定しています。</p> <p>。 今後は、9月下旬までに運営業務委託契約等を、年末までに式典2部のアトラクション出演委託契約を締結しますが、委託内容に占める人件費割合が大きく、賃金のベースアップなどの影響で昨年度と同内容の委託であっても、委託料が増額となることが予想されます。</p>
事業の方向性・改善策	<p>「二十歳のつどい」は民法改正により成人年齢が引き下げられた令和4年度より、それまでの「成人祝賀のつどい」から改名して実施しています。20歳という節目の年に改めて成人であることの自覚と自立を促し、次代を担う青年への期待と励ましを伝えることを目的に、成人の日の祝日に今後も式典を開催します。なお、会場規模や安全面等からも参加者を3回に分けての開催が適正と考えます。</p> <p>国では、「こどもまんなか社会」の実現に向けた動きを加速化しており、青少年の自立支援や社会参加を促す取組は、今後より重要になってくることから、こうした国の動きも踏まえながら、区の今後の青少年の自立支援等のための取組のあり方を検討していきます。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充
	II 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	<p>「二十歳のつどい」では、これまで行財政改革推進計画に基づき、配布物等への広告掲載を行い、収入確保を図っていましたが、参加者を対象とした広告掲載を希望する企業が少ないことを理由に令和5年度実施時より広告代理店との契約を見送ることとなりました。そのため、広告掲載による収入がなくなり、広告代理店との契約に含めていた一部の作業を運営業務委託に上乘せすることから、運営業務委託の契約額は増額となります。</p> <p>また、運営業務及び警備・誘導業務委託は人件費が占める割合が大きいため、賃金のベースアップにより、増額となることも想定されます。</p> <p>コロナ禍より式典を3回に分けて実施していますが、会場規模や参加者数を踏まえても適正な実施回数と言えます。また、実施内容も必要最低限の内容と言えることから、実施内容等の見直しによる事業コストの大幅な削減は見込めません。</p>	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00271)

事務事業名称	児童健全育成事業			款	04	項	02	目	01	事業	035	整理番号	258
現担当課名	児童青少年課		係名	児童館運営係 事業係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	260		
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業				
事業開始	昭和41年度	実行計画事業	目標	06	施策	18	計画事業	01	主要事業（区政経営報告書掲載事業）				
令和 4年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般				

令和 4年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	18歳未満の児童及び保護者、児童の健全育成支援の活動を行う団体・個人等	根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第35条、同法第40条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則等
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける事業の充実を図り、児童の自主性、社会性、創造性等を培い、その健やかな成長を支援する。	活動指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2)	センター及び児童館数 子ども・子育てプラザ数
事業内容（事務事業の内容、やり方、手段）	児童館、児童青少年センターの自由利用のほか、各種事業等を実施する。 ○子ども・子育てプラザでの各種講座や遊びのプログラム、情報提供及び利用相談を実施する。 ○乳幼児親子の居場所として、居心地の良い環境設定や親子間の相互交流促進を行う。 ○地域の行事や連絡会などの取組によるネットワークづくりを行う地域子育てネットワーク事業を実施する。 放課後等居場所事業を実施する。	指標説明 成果指標 指標名(1) 指標説明 指標名(2) 指標説明	年間延べ利用者数（センター、児童館及び放課後等居場所事業） 【行政】 年間延べ利用者数（子ども・子育てプラザ） 【行政】

指標、総事業費 (Plan・Do)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度	令和 4年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比(%)	予算執行率 (%)
活動指標(1)	1 館	33	30	30	28	28	27	100.0	98.6
活動指標(2)	2 館	5	5	5	6	6	7	100.0	
成果指標(1)	3 人	641,104	719,000	956,893	918,500	1,015,941	997,400	110.6	
成果指標(2)	4 人	117,351	144,000	181,127	202,500	217,940	254,360	107.6	
事業費	5 千円	217,486	268,741	261,420	305,387	301,036	335,603	特記事項	
人件費	常勤職員分（再任用含）	6 千円	1,185,069	1,088,454	1,092,667	1,119,300	1,188,329	1,140,801	放課後等居場所事業の実施箇所数が増えたことなどにより事業費が増加しました。
	上記以外の職員	7 千円	181,400	202,805	216,825	214,253	213,324	205,600	
総事業費 (5+6+7)	8 千円	1,583,955	1,560,000	1,570,912	1,638,940	1,702,689	1,682,004		
財源	受益者負担分	9 千円	0	0	0	0	0	0	
	国・都からの補助金	10 千円	30,708	26,200	37,891	31,248	41,359	44,131	
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0	
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	30,708	26,200	37,891	31,248	41,359	44,131	
	差引：一般財源 (8-12)	13 千円	1,553,247	1,533,800	1,533,021	1,607,692	1,661,330	1,637,873	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 258

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	児童青少年センター事業	1	館	2,141
	児童館、子ども・子育てプラザ事業	33	館	9,364
	ゆうキッズ、地域子育てネットワーク事業	33	館	12,342
	放課後等居場所事業	14	校	251,553
	その他 (管理運営費等)			25,636
取組成果	<p>児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける児童健全育成事業、ゆうキッズ事業、地域子育てネットワーク事業を実施しました。</p> <p>また、高井戸第三小学校での放課後等居場所事業の実施準備を行うとともに、区内7か所目となる子ども・子育てプラザ下高井戸の開設に向けた準備に取り組みました。</p> <p>なお、これまでの児童館再編の取組の検証を行い、より良い子どもの居場所についての検討等につなげることとなったため、「児童館再編に係る作業部会」において検証作業に取り組みました。</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析 (1 / 2)	<p>この間、児童館再編の取組を進めることで、児童健全育成支援の充実・発展を図ることとしていましたが、児童館再編の取組を検証し、今後のより良い子どもの居場所のあり方を検討していくこととしています。</p> <p>アフターコロナにおいて、利用者が安全・安心に利用することができる環境を維持しながら、事業運営の充実を図っていく必要があります。また、令和4年度に施行されたこども基本法の規定を踏まえ、子どもの意見がより一層反映されるように事業運営を進めていく必要があります。</p>
課題・分析 (2 / 2)	<p>子どもを脅かす事件・事故の多発等を背景に、小学生の保護者からは施設の安全・安心な環境だけでなく、施設への往来の安全や安心が強く求められています。また、小学校でのタブレットを用いた学習が進む中、施設利用中のタブレット使用が求められています。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況 (年度末までの見込含む)	<p>高井戸第三小学校での放課後等居場所事業を開始するとともに、令和5年9月には子ども・子育てプラザ下高井戸を開設しました。これにより、区内7地域にそれぞれ1か所の子ども・子育てプラザが整備されたこととなります。</p> <p>また、令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に変更されたことを受け、この間の「新しい運営様式」の中での制限等 (利用人数及び利用時間の制限等) をすべて解消して通常運営を再開し、コロナ禍前のように子どもの健やかな育成を支援するための様々なプログラムを実施するなど、子ども達が安全・安心に過ごすことができる環境づくりに努めました。</p>
事業の方向性・改善策	<p>児童館や子ども・子育てプラザでは安全・安心な居場所の提供のほか、子ども達が成長段階に応じた豊かな遊びや多種多様な経験等を通じて自主性や社会性を育むことができる活動を展開し、子どもの健やかな成長や子育て力の向上を引き続き支援するとともに、より良い子どもの居場所づくりを推進します。</p> <p>また、放課後等居場所事業をより安心して利用できるよう、居場所安全確認アプリケーションの導入や学校休業日の実施時間の拡充などの検討を行い、事業の充実を図ります。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>放課後等居場所事業は、実施校数の増やwifi環境の整備等に伴い委託料が増加します。また、居場所安全確認アプリケーションの導入や学校休業日の実施時間の拡充を行う場合は、その分の経費が増加します。</p>	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00273)

事務事業名称	子ども国内交流事業	款	04	項	02	目	01	事業	037	整理番号	259	
現担当課名	児童青少年課	係名	事業係					連絡先電話番号	4402	昨年度整理番号	262	
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業			
事業開始	平成 2年度											
令和 4年度担当課名	児童青少年課								事業評価区分	一般		

令和 4年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	区内在住の小学生 (5 ~ 6 年生)	根拠法令等	(1) 杉並区立児童青少年センター及び児童館事業運営要綱 (2) 杉並区都市交流実施要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	友好都市の子どもとの交流を通して、児童の健全育成を図る。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	子ども国内交流事業実施回数
事業内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	名寄市との交流会を開催する。 東吾妻町との交流会を開催する。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	参加者数 【行政】

指標、総事業費 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度	令和 4年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 回	0	2	0	2	1	2	50.0	54.8
活動指標 (2)	2								
成果指標 (1)	3 人	0	50	0	50	15	50	30.0	
成果指標 (2)	4								
事業費	5 千円	0	6,643	0	6,362	3,486	6,495	特記事項	
人件費	常勤職員分 (再任用含)	6 千円	850	8,503	834	9,177	9,150	9,150	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、東吾妻町との子ども国内交流事業を中止したことにより、執行残が生じました。
	上記以外の職員	7 千円	0	0	0	0	0	0	
総事業費 (5+6+7)	8 千円	850	15,146	834	15,539	12,636	15,645		
財源	受益者負担分	9 千円	0	0	0	0	0	0	
	国・都からの補助金	10 千円	0	0	0	0	0	0	
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0	
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	0	0	0	0	0	0	
	差引：一般財源 (8-12)	13 千円	850	15,146	834	15,539	12,636	15,645	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 259

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	子ども交流会の開催	1	回	3,486
	その他 ()			
取組成果	<p>名寄市との交流会は、平成5年に名寄市(当時の風連町)の小学生を杉並区に招待することから始まり、子どもたちが相互に訪問・交流し友好を深めています。東吾妻町との交流会は、平成2年から実施しています。令和2,3年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染防止のため、交流事業を中止しましたが、令和4年度は規模を縮小して実施しました。なお、東吾妻町との交流事業は、東吾妻町からの申し出により引き続き中止しました。</p> <p>【令和4年度】名寄市との交流会(名寄編、杉並編:各3泊4日 参加児童各自治体15名・計30名)</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析(1/2)	<p>本事業は、杉並区と交流自治体の子どもたちが、一度の交流会で両方の自治体に訪問する形で実施しており、子どもたちは、子ども同士の交流だけでなく、お互いの文化や自然等にも直接触れることができ、将来にわたる友好関係の礎になっています。</p> <p>一方で、交流会の日数を確保するため、夏休み期間に実施が限られ、近年の猛暑への適切な対応が課題となっています。また、杉並区では参加希望者が非常に多く、毎年、参加できない子どもが多数出ていますが、交流自治体側は現在の定員を増やすことが難しいとの声もあり、区民ニーズにどのように応えていけるかが課題となっています。</p>
課題・分析(2/2)	
現年度の取組成果・予算執行状況(年度末までの見込含む)	<p>令和5年度は名寄編に16名、東吾妻編に16名の計32名が参加し、特に東吾妻町との交流会は、平成31年度に実施して以来、4年ぶりに実施することができました。同世代の子どもたちが生活を共にしたり、それぞれの自治体の文化や生活を体験することで、自治体交流を深めるものとして意義深いものになりました。</p>
事業の方向性・改善策	<p>杉並区と交流自治体の子ども達が相互の地域を訪れ、さまざまな体験や交流を行う活動として、貴重な機会の一つとなっている事業であり、今後も交流自治体と連携し、課題を共有しながら事業を継続していきます。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	引き続き、子どもたちの体験・交流を行う貴重な機会の一つとなるよう、本事業を継続していきます。	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00282)

事務事業名称	次世代育成基金の運営			款	04	項	02	目	01	事業	050	整理番号	264	
現担当課名	児童青少年課	係名	青少年係	連絡先電話番号	4402			昨年度整理番号	267					
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業					
事業開始	平成24年度	実行計画事業	目標	06	施策	18	計画事業	03						
令和 4年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般					

令和 4年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	区内の小・中・高校生、支援する大人	根拠法令等	(1) 杉並区次世代育成基金条例 (2) 杉並区次世代育成基金推進会議設置要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	子どもたちが、国内外の文化・芸術・自然に触れ、またはスポーツ・交流に参加する機会を創出するため基金を運営する。基金への理解・賛同を得られるよう周知し、募金の呼びかけを図る。	活動指標	基金活用事業の実施件数
事業内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	区内の小・中・高校生を対象とした国内外の体験交流事業等の実施に対し、子どもの参加に係る経費の2分の1を基金から充当する。基金の趣旨を広く区民に周知し、寄附を募る。各種イベント会場等で募金活動を実施する。	指標名 (1)	区主催と民間提案事業助成による基金活用事業の件数
		指標説明	次世代育成基金への募金活動数
		成果指標	基金活用事業の参加児童・生徒数
		指標名 (1)	各事業の参加人数の合計【行政】
		指標名 (2)	次世代育成基金への寄附総額
		指標説明	募金額を含みます。【行政】

指標、総事業費 (Plan・Do)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度	令和 4年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1 件	4	11	7	12	11	12	91.7	72.6	
活動指標 (2)	2 回	5	13	10	13	20	13	153.8		
成果指標 (1)	3 人	162	439	272	758	673	717	88.8		
成果指標 (2)	4 千円	8,330	10,000	18,278	10,000	9,774	10,000	97.7		
事業費	5 千円	10,378	31,249	22,901	22,513	16,344	19,536	特記事項		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	6 千円	6,972	11,904	7,342	8,343	8,318	9,982	いただいた寄附を基金に積み立てるためには寄附受領額と同額を支出する必要があるため寄附受領額が大きかった令和3年度の事業費が他の年度と比べて高額となっています。 区主催の基金活用事業は、新型コロナウイルスの影響により8事業のうち1事業が中止となりました。また、助成を行った民間提案事業4事業のうち3事業の助成額が上限額に満たなかったため、執行残が生じています。 より解りやすい指標となるよう、活動指標と成果指標の一部を改めました。	
	上記以外の職員	7 千円	3,628	3,628	4,043	3,675	2,575	3,678		
総事業費 (5+6+7)	8 千円	20,978	46,781	34,286	34,531	27,237	33,196			
財源	受益者負担分	9 千円	0	0	0	0	0	0		
	国・都からの補助金	10 千円	0	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	0	0	0	0	0	0		
	差引：一般財源 (8-12)	13 千円	20,978	46,781	34,286	34,531	27,237	33,196		

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 264

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	次世代育成基金特別番組及び広報用動画制作業務等委託	1	回	990
	基金の積立	1	回	10,824
	基金活用事業助成金の交付	4	件	3,155
	次世代育成基金活用事業実施報告書等、印刷物の作成	6	件	901
	その他 (啓発用消耗品の購入 ほか)			474
取組成果	<p>次世代育成基金は令和4年度に創設10周年を迎えました。一層の制度趣旨の理解を求め、寄附者の裾野を広げることを目的に、基金創設10周年記念展を杉並公会堂で開催したほか、次世代育成基金の特別番組を作成して区内ケーブルテレビで放送し、区公式YouTubeチャンネルでも公開しました。その結果、2,075件 / 9,773,605円のご寄附をいただくことができました。</p> <p>また、基金を活用して実施した事業は全部で11件 (区主催7件、民間助成4件) あり、昨年度を大きく上回る673名の児童・生徒に貴重な体験機会を提供することができました。</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析 (1 / 2)	<p>次世代育成基金は、次代を担う子どもに対して交流や体験等の様々な事業への参加を支援し、その健やかな成長を図ることを目的に、平成24年度に区独自の制度として創設されました。</p> <p>基金創設後、基金の周知や寄附勧奨に取り組んできた結果、創設後の11年で、累計1億6千万円超、年平均1,500万円ほどのご寄附を頂くなど、寄附の裾野は確実に広がっていると同時に、こうした貴重なご寄附を原資に、延べ94事業、延べ5,000人を超える子どもたちに様々な体験活動にご参加いただくなど、成果を挙げています。</p>
課題・分析 (2 / 2)	<p>令和4年度は、新型コロナウイルスの影響で予定していた区主催の1事業が中止になったこと等により、基金活用事業への参加者数は目標値を下回っていますが、前年度と比較すると大きく増加しています。また、ほとんどの実施事業で定員を超える申込みがあるなど、基金活用事業の認知度も高いと言えます。</p> <p>一方で、寄附受領額の1年平均額である約1,500万円を基金活用額が上回っている年も見られることから、今後も将来に渡って持続可能な形で基金を運用していけるよう、寄附勧奨の取組を継続するほか、基金活用事業のあり方を改めて検討していく必要があります。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況 (年度末までの見込含む)	<p>令和5年度に予定する基金活用事業は全12事業で、合計30,889千円を活用して700人を超える区内の児童・生徒に貴重な体験や経験の機会を提供する予定です。区主催8事業のうち、8月末までに実施を予定していた5事業は全て予定通りに実施しました。また、民間団体等が実施する事業への助成制度には7事業の申請があり、審査会を経て4事業を採択した結果、4,645千円を助成予定です。</p> <p>寄附等による受領額は、7月末時点で169件、1,849千円であり、8月以降では敬老会、新年賀詞交歓会の会場のほか、初の取組として11月には荻窪駅頭での周知・募金活動を予定しています。</p> <p>また、周知チラシ・ポスター等を作成し、毎年11月に区内全域の町会・自治会等での掲示や回覧を行うことで、年末の寄附額は増加します。</p>
事業の方向性・改善策	<p>基金への寄附件数のほか、基金活用事業への参加希望者も多いことから、区内における基金の認知度は高まっているものと評価できる一方で、子どもたちに充実した交流や体験の機会を継続的に提供するためには、一定額の基金を維持する必要があります。そのためには、より一層多くの方に区独自の制度である本基金の趣旨をご理解いただき、未永くご支援をいただける仕組みを構築する必要があります。今後も様々な場面や手段でPRを行いながら、寄附者の裾野を広げ、これまで以上に区内の寄附文化を醸成できるよう、寄附勧奨の取組を継続していきます。</p> <p>また、基金創設から10年以上が経過したため、これまでの基金の活用方法や内容を踏まえながら、必要に応じて、活用方法等の見直しを行います。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・対象の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>基金の設置目的を果たすためには毎年安定した寄附額を確保する必要があります。引き続き基金趣旨の一層の周知と、寄附募集の取組を推進する必要があります。一定額以上の寄附者には成果報告として基金を活用した事業の報告書等を送付しているため、寄附者が増えることで、報告書等の作成費及び郵送費も増加することとなりますが、継続的にご支援いただくためには成果報告は必須です。</p> <p>また、基金創設から10年以上が経過したことから、これまでの基金の活用方法や内容を踏まえながら、必要に応じて活用方法等の見直しを行うこととしており、その結果によっては、事業の方向性に影響が生じます。</p>	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00686)

事務事業名称	子どもプレーパーク事業			款	04	項	02	目	01	事業	063	整理番号	271	
現担当課名	児童青少年課	係名	管理係	連絡先電話番号	4402			昨年度整理番号	274					
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業					
事業開始	平成27年度													
令和 4年度担当課名	児童青少年課			事業評価区分	一般									

令和 4年度 事務事業の概要 (Plan)

対象 児童	根拠法令等 (1) (2)	杉並区子どもプレーパーク事業実施要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 自由な遊びの場を提供し、火おこしや水遊び、木登りなどの体験を通じて、子どもたちの自主性や社会性、創造力を育み、地域社会の中で健やかな成長を推進する。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	プレーパーク実施回数
事業内容 (事務事業の内容、やり方、手段) 自由な遊びの場を提供する。 火おこし、水遊び、木登り、工作等の子どもの活動・遊びを支援する。 地域住民の交流活動等の場を提供する。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	プレーパーク参加者数 【行政】

指標、総事業費 (Plan・Do)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度	令和 4年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 回	53	71	61	72	62	72	86.1	100.0
活動指標 (2)	2								
成果指標 (1)	3 人	12,119	12,000	16,525	14,000	15,566	15,000	111.2	
成果指標 (2)	4								
事業費	5 千円	6,070	6,056	6,056	6,104	6,104	6,514	特記事項	
人件費	常勤職員分 (再任用含)	6 千円	1,701	1,701	1,669	1,669	1,664	1,664	
	上記以外の職員	7 千円	0	0	0	0	0	0	
総事業費 (5+6+7)	8 千円	7,771	7,757	7,725	7,773	7,768	8,178		
財源	受益者負担分	9 千円	0	0	0	0	0	0	
	国・都からの補助金	10 千円	3,021	3,027	3,028	3,830	3,052	3,257	
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0	
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	3,021	3,027	3,028	3,830	3,052	3,257	
	差引：一般財源 (8-12)	13 千円	4,750	4,730	4,697	3,943	4,716	4,921	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 271

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	子どもプレーパーク事業委託費の支出	1	団体	6,104
	その他 ()			
取組成果	<p>平成30年度から委託事業として実施し、区立公園を会場としたプレーパーク「杉並冒険遊び場」を開催（柏の宮公園30回、5,481人参加、井草森公園27回、9,008人参加、その他の公園5回、1,077人参加）しました。天候の影響で中止等になる回もあり、前年度と比較し、参加者は延べ959人減りました。</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析 (1 / 2)	<p>区とNPO法人との協働提案事業として平成27年7月から事業を開始し、利用者から継続を望む声を多く頂いたことなどを踏まえ、平成30年度からは、区の委託事業として子どもプレーパーク事業を実施しています。</p> <p>井草森公園及び柏の宮公園を毎月数回開催する固定の会場とすることで地域への定着を図るとともに、区内各所の公園等で年間6回程度の出張プレーパークを開催することで、ニーズに応じた柔軟な対応を図っています。</p>
課題・分析 (2 / 2)	<p>平成27年度から令和4年度までに、延べ451回、88,846人の参加があり、直近3年度間の実施状況は以下のとおりとなっています。</p> <p>【実施回数及び参加者】 令和2年度：53回、12,119人 令和3年度：61回、16,525人 令和4年度：62回、15,566人 参加した児童の関係者からは、「普段の公園の利用の中では得られない貴重な体験の場になった」、「実施会場や開催日を増やしてほしい」といった意見が寄せられています。</p>
現年度の取組成果・予算執行状況 (年度末までの見込含む)	<p>井草森公園で毎月第1日曜・第4水曜及び隔月第3日曜、柏の宮公園で毎月第3土曜・第4日曜・第2水曜と、定期的に子どもたちの自由な遊びの場として子どもプレーパークを開催することにより、地域への定着が図られ、多くの区民に参加いただきました。</p> <p>また、出張プレーパークはこれまで区立公園を会場に実施していましたが、区民要望等を踏まえ、令和5年度は新たに都立公園（高井戸公園）や小学校内で実施することとするなど、区民ニーズに合わせた柔軟な対応を行いました。</p>
事業の方向性・改善策	<p>令和4年度は1回平均251人、年間累計で1万5千人を超える方にご参加いただき、令和5年度も現時点までで多くの区民の方にご参加いただくなど、参加者から好評を得ている事業であることから、引き続き、利用者の満足を得られるよう事業を継続していきます。</p> <p>また、様々な地域の子どもの体験の機会を提供できるよう、出張プレーパークを新たな公園でも開催できないかなど、より効果的な事業展開を検討していきます。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>引き続き利用者の満足が得られるよう、実施場所や回数を見直すほか、新型コロナウイルス感染症対策に留意し、より安全な事業実施に向けて工夫していきます。</p>	

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

(00292)

事務事業名称	児童青少年センター・児童館等の維持管理			款	04	項	02	目	02	事業	002	整理番号	286
現担当課名	児童青少年課	係名	管理係	連絡先電話番号	4402			昨年度整理番号	284				
上位施策No・施策名	18 子どもの居場所づくりと育成支援の充実							予算事業区分	既定事業				
事業開始	昭和41年度												
令和 4年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	施設維持管理				

令和 4年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	児童青少年センター、児童館、子ども・子育てプラザ、学童クラブの各施設	根拠法令等	(1) 児童福祉法第35条、同法第45条 (2) 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○施設の実情にあわせた修繕や設備等の整備を適切に行い、安全・安心で快適に利用できる施設を維持することで、児童の健全育成支援の充実を図る。	活動指標	
		指標名 (1)	
		指標説明	
		指標名 (2)	
		指標説明	
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	施設の保守点検、小規模修繕を行う。 施設の設備、維持管理物品等を購入する。 施設の光熱費等公共料金を支払う。	成果指標	
		指標名 (1)	
		指標説明	
		指標名 (2)	
		指標説明	

指標、総事業費 (Plan・Do)

区分	単位	令和 2年度	令和 3年度		令和 4年度		令和 5年度	令和 4年度対計画比 (%)	令和 4年度予算執行率 (%)	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画			
活動指標 (1)	1								93.3	
活動指標 (2)	2									
成果指標 (1)	3									
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	293,348	308,186	281,284	352,763	329,218	421,578	特記事項 光熱水費の高騰などにより、事業費が増加しました。		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	6 千円	182,134	170,910	175,203	178,540	185,491			181,332
	上記以外の職員	7 千円	3,628	3,991	3,675	3,675	3,678			3,678
総事業費 (5+6+7)	8 千円	479,110	483,087	460,162	534,978	518,387	606,588			
財源	受益者負担分	9 千円	1,589	3,250	1,213	2,358	3,430			3,265
	国・都からの補助金	10 千円	36,581	18,758	41,945	30,488	49,214	48,844		
	その他の補助金等	11 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (9+10+11)	12 千円	38,170	22,008	43,158	32,846	52,644	52,109		
差引：一般財源 (8-12)	13 千円	440,940	461,079	417,004	502,132	465,743	554,479			

令和 5年度杉並区事務事業評価シート

令和 4年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 286

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	施設保守管理委託	62	所	173,081
	施設修繕	62	所	29,976
	光熱水費の支出			103,372
	建築工事	1	所	4,851
	その他 (電話料・手数料・備品購入等)			17,938
取組成果	<p>各施設を安全・快適に利用できるよう、施設保守管理委託契約に加え、計画的な備品・消耗品の購入や迅速かつ効率的な施設・設備の修繕を行い、適切な維持管理に努めました。また、学童クラブの受入数の拡大に伴い、ランドセルロッカーの増設など、育成環境の整備を図りました。</p> <p>施設修繕に当たっては、将来的な大規模修繕の計画や関連諸室の改修等の予定を確認し、工事内容が重複しないよう計画的な修繕を進めました。</p>			

令和 4年度 評価・分析、方向性・改善策 (C h e c k ・ A c t i o n)

課題・分析 (1 / 2)	
課題・分析 (2 / 2)	
現年度の取組成果・予算執行状況 (年度末までの見込含む)	<p>特定天井の落下防止工事のほか、設備保守管理・清掃業務委託、計画的な修繕等により引き続き安全・安心な施設環境の維持に取り組みます。</p>
事業の方向性・改善策	<p>今後の子どもの居場所づくりについては、これまでの児童館再編の取組の検証やより良い子どもの居場所についての検討等を踏まえ、今後の方針を決定していくこととされています。それまでの間の施設維持管理においては、経年劣化した施設の保全・管理や学童クラブ需要増に伴う育成環境の整備に対し、緊急度や優先度等を考慮して計画的に取り組み、適切な施設の維持管理に努めます。</p>

令和 6年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・対象の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>児童館数の減少がありますが、学童クラブの整備による施設数の増に加え、施設の老朽化に伴う屋上防水の劣化による漏水、床材や内壁の剥離、設備面ではトイレの排水不良、冷暖房設備の故障をはじめとする修繕需要の高まりなどによる事業コストの上昇が見込まれることから、安心・安全な施設環境の維持に必要な経費を適切に予算化する必要があります。</p>	